

# 教 育 研 究 業 績 書

2023年 5月 1日

氏名 藪 淳 一

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 教育学	教育学（幼児教育・保育）	
2. 社会学	社会学（コミュニケーション）	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 「社会人基礎」の学生教育指導	平成24年4月～ 現在	「社会人基礎力チェック」を初回の授業と最終回の授業で実施し、学生が自らの良さ・課題・成長に気づくとともに、社会人になるまでの間に何を学び何をなすべきか、意識化できるようにしている。また、グループワークを適宜取り入れ、学生が主体的に授業に参加できるように進めている。毎回、授業の終わりに質問シートに記入してもらい、次回の授業で回答することで、個々の質問や意見にも対応できるように努めている。
2) 「職業論」の学生教育指導	平成25年9月～ 現在	比較的少人数の専攻科の授業のため、一人ひとりにできるだけ発言の機会を与え、自分の考えを広げ深められるようにしている。また、労働、給与、採用試験など具体的なテーマを取り上げることで、就業力と職業意識の向上につなげている。学外授業として附属幼稚園以外の幼稚園を見学する機会をつくり、幼児教育・保育への視野を広げるとともに、子どもに関わる仕事に就くことへの期待感をもてるようにしている。
3) 「日本語コミュニケーション演習（口語表現）」の学生教育指導	平成28年4月～ 現在	発声・発音・滑舌の反復練習や実践的な演習を通じて、人前で話す経験を重ね、自信をもてるようにしている。また保育の現場につながるように、職員会議や園内研修を想定した話し合い、保育を保護者に伝える方法、素話など実践的な内容も取り入れている。授業のまとめとして、自分の思いや考えを相手に効果的に伝える力を伸ばすために、受講者全員が参加するプレゼンテーションコンテストを実施している。
4) 「保育者論」の学生教育指導	2019年9月～ 現在	保育実践の動画を毎回見せ、幼児理解、保育者の援助、環境構成などを多様な視点でとらえる機会をつくるとともに、他の授業等で学ぶ理論を、保育の実践と結びつけて考えることができるようにしている。また、現場で活躍している優秀な保育者の実践例や生き方を紹介することで、保育者の役割を理解し、専門性を向上させる意識が高まるように努めている。
2 作成した教科書，教材		特記事項なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項	平成21年 8月 平成22年 4月 平成25年11月 平成28年 1月 平成28年 7月  平成29年 9月 2022年 8月	大学から幼稚園に受け入れた実習生に対する指導（以降毎年） 札幌高等裁判所新採用職員研修講師（以降毎年） 苫小牧社会福祉協議会精神保健大会講演講師 秋田大学教育実践セミナー講師 北海道私立幼稚園協会主催の免許状更新講習講師 （平成29年10月、平成30年9月、2019年8月にも担当） 帯広市教育委員会教育講演会講師 石狩管内教育講演会講師
5 その他		特記事項なし

職務上の実績に関する事項				
事項		年月日	概要	
1 資格, 免許		平成24年 9月 平成30年 9月 2021年12月17日	幼稚園教諭一種免許 保育士資格 公認心理師	
2 特許等			特記事項なし	
3 実務の経験を有する者についての特記事項		平成26年 5月 平成26年 5月 平成30年 5月 2020年5月	北海道私立幼稚園協会教育研究委員長 (平成30年5月まで) 札幌市私立幼稚園連合会副会長 (2020年5月まで) 北海道私立幼稚園協会経営研究委員長 (2020年5月まで) 札幌市私立幼稚園連合会会長 (現在に至る)	
4 その他			特記事項なし	
研究業績等に関する事項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. ひとりぼっちたち	単著	平成9年3月	近代文芸社	小説 (自費出版)
2. 虹のかかる街	単著	平成21年2月	文芸社	小説 (自費出版、小説すばる新人賞最終候補作品)
(学術論文)				
1. 平成28年度文部科学省委託「私立幼稚園教員等のリフレクティブ・マネジメントを支え高める学校評価実施支援システムに関する研究」	共著	平成29年3月	公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (48ページ)	内省と対話によって自己評価の質を高めるリフレクティブ・マネジメントを支える仕組みとして、「公開保育」というシステムの実効性を研究したものである。公開保育のプロセスを通して、子供の姿を基に実践について話し合う風土が醸成されていくことが望ましいが、これを支援する公開保育コーディネーターには、「教育・保育」だけでなく「ファシリテーション」についての理解という専門性も求められる。(pp. 7～16)
2. 平成29年度文部科学省委託「幼児教育の質向上を目指した学校評価の推進に関する研究」	共著	平成30年3月	公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (69ページ)	学校評価を推進し、各園の教育の質を向上させるためには、園長・主任等のリーダーシップだけでなく、保育者が自らの課題を発見し、同僚との対話を重ねて改善への取組を進めることが有効である。つまり、多様な意見に出会い多様な見方があることを知ることで、新たな気づき生まれ、次の手立てにつながっていくことが望ましい。教育の質をさらに向上させたいという共通の目標をもって対話と内省を重ねていく同僚性を、園の学びの文化として育むことが大切である。 (pp. 21～25)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 3. 令和元年度文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」『私立幼稚園のための学校評価ガイドブック』	共著	2020年3月	公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 (60ページ)	幼児教育・保育の無償化が始まり、私立幼稚園も今まで以上に「公の教育を担う学校」としての責務が大きくなった。専門性をもつ教員が、自らの教育を真摯に振り返り、改善策を見出し、アクションを起こしていくという主体的な評価の営みがあったこそ、質の高い幼児教育が生み出されていく。一連の学校評価に継続的に取り組むことで、質向上を図り続ける園の風土が醸成されることが期待でき、また社会への説明責任を果たすことにもなる。(pp. 6～15)
(その他) 1. 人が伝えるから伝わる	単著	平成30年3月	カマラード(公益社団法人北海道私立幼稚園協会) (35ページ)	コミュニケーションにおいて、非言語コミュニケーションの果たす役割は大きい。発する言葉が重要なのは間違いないが、言葉以外のメッセージも伝わるという事実を理論的に知っておくことは、「伝える力」を磨く上で、大きな力となる。言語を操る力も、非言語的能力も、人だけがもつ宝物である。子どもの育ちも、保育の意図も、保育者や保護者の思いも、人が伝え合うからこそ伝わり合うのだと言える。 (pp. 12～13)